

「ユース非核リーダー基金」訪日プログラム (広島・長崎スタディツアー)

ユース国際会議

石原内閣総理大臣補佐官 冒頭挨拶 (ビデオメッセージ)

2024年8月29日(木) 13:00～

於：広島国際会議場

ユース非核リーダー基金、第1期生・訪日プログラム参加者の皆様、初めまして、内閣総理大臣補佐官として核軍縮・不拡散問題を担当している石原宏高です。世界40か国以上から長崎、そしてここ広島に一堂に会してのスタディツアーも、このユース国際会議とそれに続く修了式で、いよいよ閉幕を迎えます。

スタディツアーでは、長崎での開会式に始まり、長崎、広島での被爆者講話や平和公園・資料館の見学など様々なプログラムを経験されたと伺っています。

また、長崎・広島で活躍するユースとも交流され、これまでオンライン研修で学び、考えられたこと、そして今回のスタディツアーで実際に見て、感じられたことを踏まえながら、「核兵器のない世界」の実現に向け、仲間と活発な議論を交わされたかと思います。

改めて申すまでもなく、国際安全保障環境が一層厳しくなるとともに、核軍縮を巡る国際社会の分断が深まっています。しかしだからこそ、我々は「核兵器のない世界」に向けた歩みをやめるわけにはいきません。

核兵器国、非核兵器国、核実験の影響を受けた地域、紛争経験国など、様々な歴史、政治環境、文化を背景に有するユースの皆様が、人生における貴重な一定の時間を投資し、このプログラムに参加されたことは大変意義があると確信しています。また、そのことを是非誇りに思っていたきたいと思います。

岸田総理が長崎における開会式のビデオメッセージでも述べられたとおり、来年は、広島・長崎に原爆が投下されてから80年の節目の年にあたります。被爆者の方々が高齢となる中、被爆の実相を世界に伝えていただくためには、皆様のようなユースの役割が一層大きくなっています。

このスタディツアーで、ご自身の目と心で見え、感じられたことを、是非、皆様の御家族、友人、職場の同僚・先輩、コミュニティーに発信し、伝えて頂きたいと思います。そして、このプログラムを通じて得たグローバルなネットワークを大切に、「ユース非核リーダー」第1期生として、次に続く第2期生のメンターの役割も担っていただきつつ、「核兵器のない世界」に向けた取組を継続していただきたいと思います。

また、第2期生の募集は2025年に開始すると伺っています。是非、周りの方にも応募するよう宣伝していただければと思います。

唯一の戦争被爆国である日本としても、現実的かつ実践的な核軍縮の取組を継続・強化してまいります。

最後になりますが、このプログラムを一から立ち上げ、初めてとなる充実したスタディツアーを実現された国連関係者の皆様の御尽力、また、広島県、広島市、長崎県、長崎市、日本のユースの皆様の御協力にも感謝申し上げます。

そして、参加者の皆様が無事に帰国された後も、それぞれの素晴らしい旅路を継続されることを祈念します。ありがとうございました。